

## 令和6年度富山市SDGs未来都市戦略会議 議事録

日 時 令和6年10月7日(月)15時00分～16時30分

場 所 富山市役所東館8階 大会議室

出席者

<委員>

(五十音順・敬称略)

氏名	団体名・役職	備考
青木 一益	富山大学学術研究部社会科学系 教授	副会長
上坂 博亨	富山国際大学現代社会学部 教授	
浦崎 滋	株式会社北陸銀行 取締役 執行役員	
(代理:島田 善明)		
北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長	
北村 和久	北陸電力株式会社 理事 営業本部 営業本部室長	
齋藤 滋	富山大学 学長	
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事	
品川 祐一郎	株式会社品川グループ本社 代表取締役社長	
(代理:島野 栄一)		
新庄 一洋	富山地方鉄道株式会社 専務取締役	会長
(代理:吉川 護)		
谷口 庄一郎	株式会社インテック 常務執行役員	
土屋 誠	日本海ガス株式会社 代表取締役社長	
中村 正美	社会福祉法人富山市社会福祉協議会 専務理事	
沼田 雅博	一般財団法人北陸経済研究所 理事長	
藤井 裕久	富山市長	
藤田 香	株式会社日経BP 日経ESG編集シニアエディター	
	東北大学生命科学研究科教授、富山大学客員教授	
本田 信次	富山市政策監	
村上 久	日本貿易振興機構富山貿易情報センター 所長	副会長
若木 洋介	北酸株式会社 環境エネルギー部長	
(代理:黒川 智子)		

欠席：久保田委員、長谷川委員

<事務局>

企画管理部長、企画管理部次長、企画調整課長、松本主幹、奥田主幹、酒井副主幹、八木主査、財務部次長、防災危機管理部次長、福祉保健部次長、こども家庭部次長、市民生活部次長、環境部次長、商工労働部次長、農林水産部次長、活力都市創造部次長、建設部次長、病院事業局管理部次長、上下水道局次長、教育委員会事務局次長、消防局次長

次第

1 開 会

2 議 題

(1) 富山市のSDGs普及展開等の取組状況について（報告）

(2) 第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業及びKPIの達成状況について（報告）

(3) その他（意見交換等）

3 閉 会

## 配布資料

富山市SDGs未来都市戦略会議 委員名簿

富山市SDGs未来都市戦略会議 席次表

富山市のSDGs普及展開等の取組状況【資料1】

第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業【資料2】

第2次富山市SDGs未来都市計画におけるKPIの達成状況【資料3】

本日の意見交換のポイント【資料4】

SDGsに取り組む各種団体等の特集記事 【参考資料1】

富山市SDGs未来都市戦略会議設置要綱 【参考資料2】

## 議事内容

### 1. 開会

- (1) 藤井富山市長より開会挨拶。
- (2) 事務局より、配布資料について確認。
- (3) 本会議の副会長として、上坂委員及び本田委員が選任されていることについて確認。
- (4) 代理の議長として、上坂委員が選任され、以降、上坂議長の進行により議題を進めた。

### 2. 議題

- (1) 富山市のSDGs普及展開等の取組状況について  
事務局より、資料1「富山市のSDGs普及展開等の取組状況」を説明。
- (2) 第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業及びKPIの達成状況について  
事務局より、資料2「第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業」、資料3「第2次富山市SDGs未来都市計画におけるKPIの達成状況」を説明。
- (3) その他（意見交換）  
事務局より、資料4「本日の意見交換のポイント」を説明。

#### 【議長】

- ・現在の状況を踏まえて、今後の取組予定や専門分野において、様々なご意見があると思う。戦略会議なので戦略に資する意見を賜りたい。

#### 【委員】

- ・企業においては、CSRとして取り組んでいる企業が多い。やはりSDGsに取り組むなかで、お金が流れて企業価値や地域価値の向上につながる取組を追求していくべきと感じている。
- ・富山市は、多くの自然資本があり、気候変動対策、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブの3つを一体的に行う施策をぜひ取り入れてほしい。
- ・生物多様性クレジットと水クレジットについて、富山市はポテンシャルがある。富山市も水資源を活かして、例えばネイチャーポジティブも含めた施策を打ち出し、水をクレジットにつなげることを入れるのはどうか。
- ・富山市が持っている自然資源にカーボンやサーキュラーと統合化して、さらにウェルビーイングと統合をするようなプロジェクトができればいい。

#### 【委員】

- ・デジタル技術を使って議論の場を設け、高校生が意見を表明できるような場を作ったらどうか。まちづくりやSDGsに関する自身の見解を、匿名性を担保した形で発信でき、意見も記録に残って可視化でき、双方向性を増せば、有益な意見が集められるのではないか。
- ・再エネの導入割合を上げていくためには、富山市だけでなく広域連携中枢都市圏などの広域的展開を考えていく必要がある。
- ・地域循環型生ゴミ堆肥化モデル事業は有意義な取組だと考えるが、このスキームの継続・発展あるいは事業化に結びつけるためにスケールメリットが必要ではないか。

#### 【委員】

- ・企業アンケートにおいて、企業がSDGsに取り組むことによって得られた効果はCSRに関する回答が多く目に付くが、すでにCSVという考え方で、企業価値を向上させていく意識に変わっている。
- ・銀行として、まずは金利メリットを与えることによって、企業のSDGsに関する取組を支援している。富山市においても、補助金や助成金を出して企業側にメリットを享受してもらいながら、次のステップへ進む取組を拡大していくべきと考える。

#### 【委員】

- ・住民はSDGsを自分ごととして生活改善ができるのか具体的な目当てを見つけづらい。行政が私たちに指し示す必要がある。
- ・住民生活とSDGsの直接的な結びつきを深くしていく必要がある。

#### 【委員】

- ・富山市とは、再エネの地産地消の取組として、市内の家庭・法人が有する「卒FIT電力」を買い取り、市内の公共施設に送るという取組を行っている。この取組は地域の方にもメリットがあり、SDGsを実感できる取組の一つだと考えている。太陽光発電の普及を進めるには補助金が非常に力になる。
- ・呉羽試験農場跡地に太陽光パネルを設置し、農業と発電を同時に行うソーラーシェアリング営農型太陽光発電の実証を行っていきたいと考えている。
- ・中小企業の取組を支援するためには省エネ診断やCO2の見える化を切り口にして働きかけ続けることが必要だと感じている
- ・小中学生や若者に対して、ワンダーランドNEXTというネットコンテンツを運営しており、その中でもSDGsの取組に関するものも提供している。このコンテンツの提供がSDGsの普及の一助になるし、企業としてもSDGsの普及について考えていきたい。

#### 【委員】

- ・市では、たくさん取組を行っているが焦点が定まっていない印象があり、目玉になるものを作っていただきたい。住民にとって一番大きい関心ごととしては、健康だと考えている。これから高齢者が増えるが、高齢者の健康をどうするか。そこにDX化をうまく利用していただきたい。
- ・中小企業は目の前のことに手一杯だと感じており、中小企業向けの教育を行う必要があるし、中小企業と関連企業をつなぐ役目を果たす人材も必要である。健康の次に重要なのは市

内産業であり、今の中小企業の状況では、市民の生活の糧もなくなってしまうためフォローを進めていただきたい。

**【委員】**

- ・環境分野での企業、行政に関する取組は目立って良いと思うが、市民側、住民の方々の実際の状況はどうか。例えば、貧困についてはシングルマザーの方は依然と厳しい状況にある。
- ・本会議に女性組織の代表の方が参画することも手法の一つである。未来を見据え、子ども関係の団体の方がいることは、市政として大事なのではないか。その枠組みができることによって、色々と社会状況が変わったとしても柔軟に対応できると考える。

**【委員】**

- ・市民の方に積極的に参加していただくSDGsのイベントを行っていく必要がある。現状では、SDGsを実感できるイベントであることが伝わりにくいため、広報活動が大事ではないか。
- ・自動運転実証実験事業は先進的な取組だと感じている。実証実験に多くの方に参加してもらうための仕組みづくりが必要だと考える。

**【委員】**

- ・公共交通を利用することによりCO2が削減されることに視点がいきがちになるが、公共交通はまちづくりや市民生活の向上に大きく関わっている。高齢者等の交通弱者にとっては、機会の平等という観点では、社会的なインフラとしての公共交通の役割は、SDGsの取組に必要不可欠である。
- ・さらにSDGsの関心を高めていくには、市民一人ひとりの身近なものにしていく必要がある。普段の生活の中で、SDGsとどう関わっているのか、もっとハードルを下げて、市民一人ひとりに伝わるような方法を考える必要がある。

**【委員】**

- ・IT企業として、決済の電子化や会議の電子化を進めている。
- ・先進企業へ見学に行き、自分たちの課題を考えることは良いことだと感じている。
- ・我々は、ゴミを発生させない取組をしている。3年前まで3人に1つゴミ箱があったが、これを減らす取組をし、今は200人に対してゴミ箱が3つしかない。富山市はゴミが捨てやすいからゴミが出るのではないか。そのような逆転の発想もある。例えば、子どもたちや企業にゴミを発生しにくくするアイデアを募集してはどうか。

**【委員】**

- ・エネルギーの見える化や省エネ提案、自立型・分散型発電などに取組んできた。今では、病院や介護施設等では、停電時における電源の確保のため、ガスコージェネレーションシステムや、自立型の空調機器が導入されてきている。
- ・富山市と「森のチカラ富山プロジェクト」の一環として、J-クレジットを活用しているが、それでは限界がある。今後は、購入という形ではなくJ-クレジットを創出ということについて議論を進めていかなければならない。それが持続可能な社会の実現に向けて、エネルギー会社として協力できることだと考えている。

### 【委員】

- ・社会福祉協議会では、誰一人取り残さない持続可能な地域づくりを目指し、市民、ボランティア、福祉団体などと連携して、フードドライブや地域食堂などを行っている。
- ・フードドライブは身近で取り組みやすい活動でもあり、企業から始まり、学校や地域にも広がっている。昨年度から企業にフードドライブの実施を呼びかけ、集まった食品をひとり親世帯、困窮世帯に配布するフードパントリー事業(食品配布事業)を行なっている。
- ・昨年度は、地域食堂を運営している団体に事例発表を行なってもらい、立ち上げのノウハウを学ぶ研修会を実施した。
- ・若い世代への福祉教育が大事だと考えており、福祉のみならず、環境やまちづくりなど幅広い視点を持って、さまざまなボランティア活動に参加する機会を作り、実践・行動につながるようにしたい。
- ・地域には医療的ケア児、ひきこもり、ひとり親など、さまざまな生きづらさを抱えた方がいる。誰一人取り残さない地域共生社会の実現に向けて、こうした方々への理解を進めて、多様な人々が参加できるイベントを継続的に行っていくことがSDGsの取組拡大にもつながる。

### 【委員】

- ・当研究所の具体的な取組としては、企業のサステナブル経営を後押しする銀行融資の評価書の作成を行っている。この費用に対して助成を行うなど、県や他の市町村とも連携しながら検討いただきたい。
- ・重点項目を絞り込み、具体化して成果を出すという形までいきたい。財源やリソース不足は否定できないため、資源の集中や配分をよく考えて、取組を進めるべきである。住みやすいまちを作ることが結果としてSDGsにつながる。

### 【委員】

- ・ジェトロでは、災害、温暖化も実は身近なことだと理解してもらうため、成田空港と関西空港に、アフリカなどの途上国を紹介するアンテナショップを作っている。高校生に途上国の現状を学んでもらい、改善につながる提案をショップで実現する取組をしている。途上国には、SDGs達成に向けて災害や温暖化など解決すべき課題が多くあり、小中学生、ユースの方々にSDGsを自分ごと化するきっかけになっていると感じている。
- ・非常に関心の高い統計は表に出しがちだが、逆に言えば低いものが課題と言える。課題はビジネスチャンスであり、企業アンケートの結果によると、産業支援への関心が低いため、そのマインドを変えるのは一つある。
- ・富山市の企業が持つ課題解決のさまざま技術が、海外でも同様の課題を抱える地域にも役立つことは必ずある。そういった国際展開を図ることも必要だと感じている。

### 【委員】

- ・水素サプライチェーンの構築を目指して、今年度から2つの共同事業を実施しており、2030年の水素流通を実現させ、脱炭素の支援、地域産業の構築に貢献したいと考えている。
- ・SDGsをビジネスチャンスと捉えようと言われるが、取組まないとビジネスが継続できなくなっていく危機感を持つことが地域企業に必要ではないか。
- ・富山市の重点ターゲットを、一般の方や企業向けに明確に示せば、より自分ごととして取り

組みやすくなるのではないか。

- ・エネルギー分野において、再エネやEVへの取組が主体だと思うが、積極的な取組や新しい施策がより見えてほしい。市民や企業を牽引していくようなインパクトのある施策を期待したい。

#### 【委員】

- ・市としても産学官金の連携を一層強化しながら、可能なものについてはできるだけすぐに実行していきたいと考えている。スマートシティ推進プラットフォーム「SCRUM-T」が設立され、SDGsとの連携も非常に親和性が高く有意義だと考えている。
- ・国連の未来サミットが開催され、大きく2点注目している。1点目は、誰一人取り残さない方向でDXの機会を活用してリスク管理するためのグローバルデジタルコンパクトが採択された点。2点目は、若者が権利と可能性を実現できる環境を国レベルで整備するために、教育、雇用、身体的健康、メンタルヘルスの確保などが挙げられる点である。
- ・2030年の達成が非常に困難な状況の中で、未来への視点を踏まえてローカルSDGsを実行していくことが大切である。浸透を高めていくためにはZ世代へのSDGsネイティブの価値観に寄り添った人材確保施策を進めていくことが重要である。防災減災に対応できる市民や民間セクターとの連携強化などが非常に重要だと感じている。子育て支援の充実、介護サービスの充実、これはインクルージョンにつながってくると思うが、ここに関わるスマートシティ政策がまさにローカルSDGsの実現につながる。
- ・官民構想のサステイナブルアクションの輪を広げることが重要だと感じている。

#### 【議長】

- ・富山市の戦略がコンパクトシティからスマートシティ、持続可能な社会という考え方の中で、富山市がこれからSDGsの核になるポリシーを考えるべきである。
- ・モデル事業や実証事業が多いが、それがいつになったら本格実施になるのか。
- ・2030年の達成に向けて、中小企業にもう少し具体的な指針を示す必要があるのではないか。

### 3. 閉会